

新型コロナ感染症の後遺症に対する  
生活支援について

公明党 戸澤 幸雄



続・わかばケアセンターの社家移転  
問題について

無会派 三宅 紀昭



問 5類に移行し、重症化などの話もあまり聞かなくなりましたが、軽症であっても後遺症に長く苦しむ例が相当数みられるようです。具体的には、強い倦怠感や思考力の低下、頭痛、体の痛み、発熱などです。因果関係の確定や確立した治療法もない現状では、本人や家族にその負担が重くのしかかっている現状があります。そこで、市の相談窓口と具体的な生活支援について伺います。

答 (保健福祉部長)：罹患後の後遺症が心配な場合は、まずはかかりつけ医への受診・相談をお伝えしています。また必要な治療内容によっては県内4つの大学病院、二次受けの医療機関を紹介する場合もあります。24時間相談ダイヤルや、びなウエルの相談窓口など、市民の方にわかりやすい周知を図ってまいります。

具体的な生活支援については、生活する上でどんなことに困っているかなど相談内容をよく伺い、可能な支援が行えるよう関係機関につなげてまいります。介護サービスや障がい者サービスのように具体的な制度がないため、個々の対応を丁寧に適切に取り組んでまいります。

問 状況別の対応はどのようにあるか伺います。

答 (保健福祉部長)：経済的に困っている場合は必要に応じて生活保護などのセーフティーネットを活用して生活再建につなげていきます。掃除や買い物などの日常の家事ができない場合は、ヘルパーサービスを案内することなどがあります。担当の健康推進課で丁寧にお話を伺い、不安の解消に向けた対応を行ってまいります。

その他の質問

- ・防災について
- ・地域活動への支援について
- ・子育て支援について
- ・教育について



わかば会館

問 中新田に所在する障がい者の通所施設であるわかばケアセンターの社家への移転計画に対し、その利用者ご家族にどうして依然として納得しがたい状況です。行政はお互いの信頼関係しかないと思つ、お互いの信頼だと思うと答弁されていますが、それを実行していれば行政への不信は高まらなかつたのではないかでしょうか。そこで、なぜ市側とわかばケアセンターの家族間で意見が折り合わないのか、ご見解をお伺いします。

答 (保健福祉部長)：利用者ご家族から心配の声があることは十分承知しています。これまでも移転の経緯について説明を行い、4月の説明会では施設の設計について建設的な意見も多くいただきました。今後も説明会を重ねて利用者ご家族と合意形成を図りながら、施設の建設を進めます。

問 現状のわかばケアセンターで何ら不自由がないという利用者ご家族の意見がありますが、移転の理由となぜ社家が選定されたのか、改めてお伺いします。

答 (市長)：わかば会館の各事業の利用希望者は年々増加しており、現在の施設規模では新たな受け入れが難しい状況です。また、今後も障がい児者の利用希望者の増加が見込まれることから、市全体の障がい福祉の充実を図るため、わかばケアセンター機能を社家に移転するものです。

問 (保健福祉部長)：選定理由は、この施設の建設に必要な2千平方m程度の規模を有する市有地であること、また障がい者施設の新設で市内の北部、中部、南部に障がい者福祉の中核施設が整い、さらなる充実が図れるためです。

答 (保健福祉部長)：市が直接という例ではなく、在宅医療相談室などで医師会、歯科医師会を通じて行っています。

その他の質問

- ・小中学校におけるPTA活動について
- ・歯科医師会を通じて行っています。
- ・市内交通渋滞対策について

オーラルフレイル事業について

政進会 大塚 真樹

政進会 大塚 真樹



問 成人歯科健診とオーラルフレイル健診のシームレスな体制は素晴らしい、しっかりと周知してほしいと思います。骨粗しように症の方の抜歯も医科と歯科の連携が重要と言われていますが、市が直接働きかけた例はありますか。

答 (保健福祉部長)：市が直接という例ではなく、在宅医療相談室などで医師会、歯科医師会を通じて行っています。